

C.A.P.が初めてアートフェアを開催したのは2003年。  
 その当時、C.A.P.の活動を支えるために  
 アーティストになにができるのかをみんなで考えていました。  
 そして思いついた結論、それは自分たちの作品を売ることだったのです。  
 アーティストが主体となってアトリエに作品を並べて展示・販売するこの催しは、  
 2010年から「CAP アートマーケット」と名称を変え、今も続いています。  
 今回のcaptureは「CAP Art Market 2012」について紹介します。

# 2012 「C.A.P.のアートマーケット」

## アートフェアとは？

アートフェアとは「美術の見本市」という意味で、会場ではギャラリストやキュレーターが自分たちの取り扱う作品を展示し、来場者は作品を購入する、という催しです。そこは作品発表の場であり、来場者や出品者同士の情報交換、またもちろん売買の場でもあるわけです。1970年にはじまったスイスのアートフェア「アート・パーゼル」は規模が大きく世界的に有名で、他にも、ロンドンやパリ、アジアでは香港、シンガポール、上海など、アートフェアは様々な都市で毎年行われています。日本では2005年から開催されている「アートフェア東京」、京阪神でもホテルを会場にしたものやジャンルを絞って行われているものなど、各地で次々に新しいアートフェアが誕生しています。

## C.A.P.のアートフェアとは？

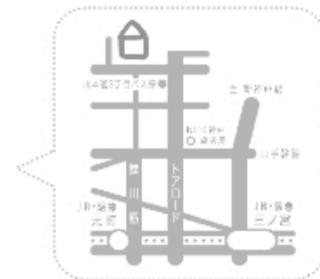
C.A.P.は1999年から旧神戸移住センターで十数人のアーティストのオープンアトリエを日常的に行っていましたが、アーティストは作品を見せるだけでなく売れることを、また、鑑賞者は見るだけでなく買うことを意識することで、作品を通してより深いコミュニケーションができないだろうか、と考えてアートフェアを始めました。ほとんどのアートフェアは、ギャラリーが主体となって行いますが、C.A.P.の場合はアーティストが主体となり、来場者と直接結びついていく事が大きな特徴です。値段をつけ、売れることを意識するのでアーティストは作品にも展示にも手が抜けません。また、会場はアーティストが普段活動しているアトリエです。来場した方はアーティストの考えている事や作品についてアトリエでの会話を通して知ることができ、そこに独特の緊張感が生まれます。

## CAP Art Market 2012~アートのお買い物

2007年までの「CAP Art Fair」では、ギャラリーでしっかりと緊張感のある展示を行い、アトリエでは個々の作家がそれぞれの見せ方で作品を展示、販売していました。その後、移住センターの改修工事があった2009年、新たに「CAP STUDIO Y3」の事業をスタート、そして国内でもたくさんのアートフェアが行われるようになった2010年、アトリエからアーティストの作品を直接持ち帰るといった産地直売を意識した馴染みやすい名称「アートマーケット」に呼び名を変更しました。今回は、センターの4階フロアを1つのギャラリーと見立て、アートマーケットといっても少しまとまりを意識します。一方、5階はカフェとショップ中心にゆったりとくつろげる空間にして、のんびり参加できるワークショップも行う予定です。アーティスト主体のC.A.P.のアートマーケット、今年もぜひお楽しみ下さい。



CAP STUDIO Y3  
 CAP CAFE&SHOP y3



〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19-8  
 海外移住と文化の交流センター内 Phone/Fax:078(222)1003

CAP CLUB Q2



〒650-0041 神戸市中央区新港町4-3 上屋Q2  
 Phone/Fax:078(959)7707 (催し物当日のみ応答)

C.A.P.は、現在アーティストの公開アトリエを中心としたCAP STUDIO Y3、  
 芸術を媒介にコミュニケーションを広げるCAP CAFE&SHOP y3、  
 そしてさまざまな人が集う実験の場CAP CLUB Q2を拠点に、  
 アートが社会に生きるための様々な活動を企画・実行しています。

[STUDIO Y3 アトリエ・アーティスト] (2012年2月現在)

浅野夕紀、井隆麻未、井ノ岡里子、倉智敬子、坂井良太、桜井頼、深田摩耶、  
 田岡和也、築山有城、藤川怜子、山村幸則

C.A.P. [芸術と計画会議]

〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19-8 海外移住と文化の交流センター内  
 Phone/Fax:078(222)1003 開館10:00~19:00/月曜休館  
 info@cap-kobe.com • http://www.cap-kobe.com/